

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 結果 なかよしこども園

I. 教育目標

<p>教育理念 人間への基礎作りとしての豊かな創造性と感性を育てる ・体験を通して子ども自身が自分で身につけ、学ぶ能力の基盤を養う。 ・自分の頭で考え判断し自発的に行動のとれる子に。</p> <p>教育の精神 ・望ましい保育環境を作り ・適切な言葉がけを開拓し ・豊かな人間形成をめざす</p> <p>保育方針 ・各年齢の発達の特徴をよくとらえ、0歳から就学までの一貫性のある保育。 ・発達の個人差を受け止め、一人ひとりの違いが大切にされ、その違いが育ち合いを生む保育。 ・実体験を通して創造性や豊かな感性を養う保育。 ・子ども一人ひとりをあたたかく受容し安定感と信頼感を持って活動できるよう、心身共に健康的な生活をめざす保育。 ・少子化、核家族化による子育て環境の変化を受けとめ、異年齢集団の関わりの中で子ども同士の育ち合う関係を大切にする保育。 ・働く女性の増加に伴いその子育てと就労を支え、家庭の育児機能の高揚を図るとともに、地域の子育て家庭へも支援活動の強化に努める。</p>

II. 今年度の重点目標

<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人一人の思いを大切にし、子ども自らが育とうとする力を育む ・様々な取り組みの中で、子どもたち同士で学び、育ち合う関係を築く ・全職員が人事考課、研修会、研究会を通して 質の高い保育、教育を目指す ・避難訓練・消防訓練等を通して災害に備える ・園内の環境の安全面の充実を図る

III. 評価項目と取組み状況

評価項目		評価・課題
1	(教育内容) 保育・教育方針の理解・徹底	法人の理念、園の教育・保育目標については、日ごろから周知することができているが、理解していても行動に表れていないこともあるので、今後も更に共通理解が持てる討議をしていきたい。
2	(教育内容) 指導計画の作成と評価	教育・保育指針を踏まえて、それぞれの年齢に応じた園児の理解と発達の様子に対応して指導計画の作成ができている。毎日の保育記録から日常の子どもへの関わり方、援助の仕方等を職員間で情報共有されている。また、改善の取り組みもできている。日々の生活の様子も写真を交えて保護者に伝えている。
3	(教育内容) 保育・教育環境の構成	子どもの自発的なあそびへの意欲を引き出し、ねらいを達成するための環境や教材・玩具の用意や設置の仕方においては、今後も勉強会や研修などの実施を通して、さらに保育の質の向上に努めていきたい。職員各々が意欲的に研修に参加したり、文献を読み学び、職員間で意見を出し合ったりして共有し、子ども主体の保育を理解してもらえるようになかよしこども園の保育を保護者などに発信することを望む。
4	(教育内容) 子どもとの関わり	・一人ひとりの思いを受け止めた個別の対応を繰り返し行っていき、目標と課題を明確にして、その思いを実現させようと努めている。・職員全員が同じ対応ができるように、共通理解を図っていくことが必要である。課題として、一人ひとりを大切にす具体的関わり方が職員によるところが見られるため、学習や研修を強化し、共通の認識をもって関わることを出来るようにする。常に一人ひとりの子どもを信じて見守り、思いに寄り添い、子どもにとっていつでも頼れる存在であるように温かく受け止めていきたい。一人ひとりの職員が自らを客観的かつ具体的に自己評価し、課題を明確にした上で新たな目標を定めることに繋げたい。
5	(職員体制の充実) 職員同士の協力・連携	職員の仕事や役割が明確であり、職員間の連携を取って円滑な園運営が出来ている。・保育をしていく上で、学年を超えた情報交換をさらに深め、手ごたえのあった取り組みや保育の事例を紹介し共有しあっている。・職員が各委員会に所属し、園の保育や内容を深めるために、それぞれが意識を持って主体的に活動している。
6	(研修と研究) 研修・研究への取組み	専門的な知識、良識等については、園内外の研修に参加し、人間性と保育の資質向上を目標としている。その目標に対して職員一人ひとりが積極的に学ぶ姿勢があり、保育の資質向上へと繋がっている。しかし、職員によりその向上心の差があるため、研修方法を工夫したり、短時間勤務の職員に対しても育成に向けた取り組みの強化が必要と考える。今年度はZoomでの研修も取り入れて、園内での自主研修も積極的に行った。
7	(安全・衛生管理) 衛生への配慮	・新型コロナウイルスによる感染流行下において、園児の健康を守り、なおかつ成長発達を獲得する。新型コロナウイルス感染予防として、毎日の検温、手指の消毒、換気加湿、アルコールを使った拭き掃除等の対策を行った。・毎日の遊具安全点検や園生活環境整備をしっかりと行い、大きな事故につながる事なく生活できている。・子どもの動きを観察し、危険な場所や動きは毎日の風札のヒヤリハットで報告し、職員間で共通理解に努めている。クラスごと、子どもたちとも話題にする事で、子ども同士も意識しあう姿が出てきた。避難訓練、交通安全教室等は計画に基づき実施している。健康・安全な生活に必要な習慣等の取り組みについては、園内掲示物や定期的に発行するお便り等を活用実施している。
8	(地域との連携) 地域との関わり	近隣の方や地域の老人会の方々を季節ごとの行事に招待したり、年長児が地域の高齢者施設を訪問するなどの交流を図っている。又、中高生の保育ボランティアを受け入れ、子どもがいろいろな世代の人たちと交流するよい経験となっている。他にも、近隣の小学校に年長児が就学に向けた学校訪問をしたり、小学生が生活科の授業で来園したり、就学に向けて教員が来園して子どもの様子を参観するなどの交流がある。(現在は新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、見合わせている活動もある)

IV. 学校関係者の評価

<p>・コロナ禍のこのような状況の中、行事をはじめ園の運営について考えていくのはとても大変なことだと思うが、おかげさまで子どもは毎日楽しく通うことができているとありがたく思っている。体調のことから、普段の出来事まで、丁寧に伝えてもらい、安心している。子どもだけでなく、親の立場にも寄り添ってくれるので感謝している。自分のクラスでない職員も、子どもの名前を覚え声をかけてくれるので、子どもはもちろんだが、親としても嬉しくありがたいと思う。</p>
--

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 結果 なかよし第2こども園

I. 教育目標

<p>教育理念 人間への基礎作りとしての豊かな創造性と感性を育てる ・体験を通して子ども自身が自分で身につけ、学ぶ能力の基盤を養う。 ・自分の頭で考え判断し自発的に行動のとれる子に。</p> <p>教育の精神 ・望ましい保育環境を作り ・適切な言葉がけを開拓し ・豊かな人間形成をめざす</p> <p>保育方針 ・各年齢の発達の特徴をよくとらえ、0歳から就学までの一貫性のある保育。 ・発達の個人差を受け止め、一人ひとりの違いが大切にされ、その違いが育ち合いを生む保育。 ・実体験を通して創造性や豊かな感性を養う保育。 ・子ども一人ひとりをあたたかく受容し安定感と信頼感を持って活動できるよう、心身共に健康的な生活をめざす保育。 ・少子化、核家族化による子育て環境の変化を受けとめ、異年齢集団の関わりの中で子ども同士の育ち合う関係を大切にす保育。 ・働く女性の増加に伴いその子育てと就労を支え、家庭の育児機能の高揚を図るとともに、地域の子育て家庭へも支援活動の強化に努める。</p>
--

II. 今年度の重点目標

<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人一人の思いを大切にし、子ども自らが育とうとする力を育む ・様々な取り組みの中で、子どもたち同士で学び、育ち合う関係を築く ・全職員が人事考課、研修会、研究会を通して 質の高い保育、教育を目指す ・避難訓練・消防訓練等を通して災害に備える ・園内の環境の安全面の充実を図る

III. 評価項目と取組み状況

評価項目	評価・課題
1 (教育内容) 保育・教育方針の理解・徹底	・保育、教育方針についてはおおむね理解しているものの、意識や認識の差があるため、統一していけるよう工夫したい。行動基準を読み合い、自分の姿を振り返ったり、大切な事を確認し合うことができた。
2 (教育内容) 指導計画の作成と評価	・各クラスで、月案についての話し合いをし、子どもひとりひとりの姿、育ちを元に翌月の計画を立てる事ができている。
3 (教育内容) 保育・教育環境の構成	・子どもが興味関心のある物にじっくり自分から関わっていけるよう、環境設定が出来ている。子どもの発達や様子を見て、それに合った環境設定が見直し、活かしていけるよう話し合うことができた。
4 (教育内容) 子どもとの関わり	・ひとりひとりの気持ちや、思い、興味に寄り添い関わる事ができた。・未満児では担当制の保育をする事で、より子どもや保護者との信頼関係を深めることが出来た。こどもの主体性を育てるために大人はどうあるべきか話し合い発表し合ったりして、気づくことができた。
5 (職員体制の充実) 職員同士の協力・連携	・大きな行事や日々の保育の中で、声をかけ合ったり助け合うなど協力体制がとれているが、一部では正規と非常勤との意識の差があったり、連携がうまくとれないところもある。みなが同じ意識で保育できるよう、関係する職員みんな直接話し合う場を設けるなどの工夫ができた。
6 (研修と研究) 研修・研究への取組み	・理念や接遇、わらべうたなどの研修に参加し保育に対する共通理解を深めたり、他園に主体性を尊重した保育を見学しに行きました。また、キャリアアップ研修に参加し、それを園内で発表し合った。・自主研修にも積極的に参加できた。今年もコロナ禍のためリモート・ビデオ研修が主だったが、参加しやすく積極的に参加することができた。
7 (安全・衛生管理) 衛生への配慮	・毎月、その季節に応じてどのような配慮が必要か、クラスや年齢ごと話し合い発表し合うことで、皆で気づき合ったり共通理解する事ができた。・毎月、火災や地震、地震からの津波など色々な災害を想定した避難訓練を行うことで、どう避難したら良いのか自分で考え行動することができていた。
8 (地域との連携) 地域との関わり	・普段からお散歩に出かけた時に、子どもから挨拶をしたり話しかけたりする姿があり、近所の方との触れ合いがたくさんある。・今年度はコロナ禍のため、遠足や夏祭り、餅つきなどに例年のように地域のお年寄りを招待することはできなかった。

IV. 学校関係者の評価

<ul style="list-style-type: none"> ・クラス掲示「今日の様子」を写真付きで毎日貼り出され、こどもたちの一日の様子がより伝わってくるようになった。自分のこどもだけでなく、クラスの雰囲気やこども同士の関わりなどもわかって良い。 ・「おいたち」では、園での様子や成長の様子が手に取るように伝わってきて、いつも楽しみにしている。 ・気になったことや心配なこと、悩み事にすぐ対応してくれるので、安心して登園させることができる。 ・登降園の際は担任だけでなく、いろいろな職員が笑顔であいさつしてくれ気持ちが良い。 ・玄関にクラスの写真が掲示され、様子がよく分かる。又、自分の子どものクラスだけでなく、大きなクラス、小さなクラスの様子も見ることができ、毎月楽しみにしている。
--

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 結果 ひらくちかえでこども園

I. 教育目標

<p>教育理念 人間への基礎作りとしての豊かな創造性と感性を育てる ・体験を通して子ども自身が自分で身につけ、学ぶ能力の基盤を養う。 ・自分の頭で考え判断し自発的に行動のとれる子に。</p> <p>教育の精神 ・望ましい保育環境を作り ・適切な言葉がけを開拓し ・豊かな人間形成をめざす</p> <p>保育方針 ・各年齢の発達の特徴をよくとらえ、0歳から就学までの一貫性のある保育。 ・発達の個人差を受け止め、一人ひとりの違いが大切にされ、その違いが育ち合いを生む保育。 ・実体験を通して創造性や豊かな感性を養う保育。 ・子ども一人ひとりをあたたかく受容し安定感と信頼感を持って活動できるよう、心身共に健康的な生活をめざす保育。 ・少子化、核家族化による子育て環境の変化を受けとめ、異年齢集団の関わりの中で子ども同士の育ち合う関係を大切にする保育。 ・働く女性の増加に伴いその子育てと就労を支え、家庭の育児機能の高揚を図るとともに、地域の子育て家庭へも支援活動の強化に努める。</p>

II. 今年度の重点目標

<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人一人をあたたかく受容し、子ども自らが育とうとする力を育む ・実体験を通して創造性や豊かな感性を養う ・全職員が人事考課、研修会、研究会を通して 質の高い保育、教育を学び実践へと活かしていく ・避難訓練・消防訓練等を通して災害に備える ・園内の環境の安全面の充実を図る

III. 評価項目と取組み状況

評価項目		評価・課題
1	(教育内容) 保育・教育方針の理解・徹底	・毎週配布される行動基準や会議の中で理念を元に保育を振り返り、教育方針についてはおおむね理解している。クラス内で話し合いを行い目標や課題を共有したり、職員が記入している個人日誌の中で振り返りをして昼礼の時に深掘りすることで意識の確認をしていきたい。
2	(教育内容) 指導計画の作成と評価	・クラスで子ども一人一人の姿や育ちを話し合い計画の制作ができている。配慮の必要な子については個人記録を作成した。園内全体でさらに共有していきたい。
3	(教育内容) 保育・教育環境の構成	・子どもが毎日の生活の流れを把握しやすく自信を持って生活できる環境設定ができている。子どもの発達や様子に合わせた手作りおもちゃを用意し、職員間で意見交換をしたり遊ぶ様子を見合っている。
4	(教育内容) 子どもとの関わり	・子ども一人一人の気持ちや思いに共感し関わる事ができた。集団生活の中でも個々のペースを大切に、意欲や自信をさらに高めていく関わりを深めていきたい。
5	(職員体制の充実) 職員同士の協力・連携	・行事の時は職員みんなが協力し合い、よりよい行事となるように考え、行動することができた。日々の保育の中でクラス内だけでなく全体との連携を深め、より個々に寄り添った保育を目指す。
6	(研修と研究) 研修・研究への取組み	・コロナ禍で研修の日程が変更になったものもあったが、パソコンを使いリモートで研修を行った。また、クラスの様子の写真や動画を会議の中で流しながら振り返りをし、その後クラスの話し合いの中で深掘りすることで課題と目標を確認することができた。
7	(安全・衛生管理) 衛生への配慮	・子どもが触れる所、おもちゃなどの消毒をこまめに行い、手洗い、うがいを心がけた。また、室内の温度や換気に気をつけた。
8	(地域との連携) 地域との関わり	・今年度もコロナ禍で地域の方はお誘いできなかったが、感染症対策をしながら少しずつ行事の参加人数を緩和し、保護者の方と行事を楽しんだ。近所の方と一緒に畑で野菜を育てたり、笹やみかんをいただいた方にはお礼の手紙を写真付きで送ったりと地域の方との心の交流ができ、支えていただいていることを感じる事ができた。

IV. 学校関係者の評価

写真とコメントが付いた「おいたち」、降園時にクラス内での成長やエピソードを伝えてくださり、安心してこども園に通うことができます。保育者の方々は子どもの姿を見かけると挨拶をしてくれるため、子どももニコニコとしています。育児に不安がある時には親身になって話を聞いてくださり、時にはアドバイスもして下さるので、とても嬉しく思います。